

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：環境安全課

担当課長名：森山 誠二

事業名	SICアクセス 主要地方道 和歌山橋本線（和田～吉礼）	事業区分	地方道	事業主体	和歌山県
起終点	自：和歌山県和歌山市和田 至：和歌山県和歌山市吉礼	延長	2.5 km		
事業概要	和歌山橋本線は、橋本市から和歌山市に至る約50kmの主要地方道であり、地域間の連携や産業の発展に資する重要な路線である。和歌山橋本線（和田～吉礼工区）道路改良事業は、都市計画道路南港山東線の一部を構成し、阪和自動車道（仮称）和歌山南SICの1次アクセス道路として、和歌山市南部地域及び西浜工業団地や和歌山下津港のある臨港地域の活性化並びに現道の和歌山橋本線や周辺道路の混雑緩和を目的とした延長約2.5kmのバイパス事業である。				
H25年度事業化	S40年度都市計画決定 H25年度都市計画変更	H25年度用地着手	H27年度工事着手		
全体事業費	約14.5億円	事業進捗率	約34%	供用済延長	— km
計画交通量	5,600～15,300台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.1 (残事業) 4.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 108/221億円 (事業費：107/220億円) 維持管理費：0.89/0.89億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 473/473億円 (走行時間短縮便益：435/435億円) (走行経費減少便益：30/30億円) (交通事故減少便益：8.4/8.4億円)	基準年 平成28年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.2(交通量±10%) 事業費：B/C=2.1～2.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.1～2.2(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=5.8～7.1(交通量±10%) 事業費：B/C=6.2～7.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=6.5～7.2(事業期間±20%)				
事業の効果等	①産業振興・観光振興 ・高速道路から和歌山市南部地域や西浜工業団地、和歌山下津港のある臨港地域へのアクセス向上により、周辺地域の産業振興や観光振興など地域活性化が期待される。 ②救急医療活動への支援 ・和歌山市北東部や岩出市域から第三次救急医療施設（県立和歌山医科大学病院）への搬送時間の短縮により、広域的な医療体制の柔術に寄与する。 ③沿道環境の改善 ・現道の和歌山橋本線をはじめとした周辺道路において、混雑緩和による沿道環境の改善が期待される。 ④緊急輸送道路機能の強化 ・新たな第1次緊急輸送道路が整備されることで、災害時における被災地への救援や防災拠点への物資輸送の円滑化が期待される。				
関係する地方公共団体等の意見	・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。 ・「第4次和歌山市長期総合計画・後期基本計画」（H26.3策定）の主要事業に位置付けられている。				
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	なし				
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得率約89%、事業進捗率約34%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成30年度完成に向け、用地取得及び工事を推進していく				
施設の構造や工法の変更等	・橋梁の桁に耐候性鋼材を使用することでライフサイクルコストを縮減 ・埋戻や盛土材への転用による建設発生土の抑制により建設コストを縮減 ・再生材やプレキャスト製品の使用による建設コストを縮減				

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

和歌山橋本線〔南港山東線〕（和田～吉礼）は、阪和自動車道（仮称）和歌山南スマートICのアクセス道路として現在重点的に整備を行っている。

当事業の完成により、阪和自動車道から和歌山市南部地域へのアクセス向上が図られるとともに、現在事業中の南港山東線（西浜3丁目～関戸1丁目）及び同線（秋葉町）の完成により、西浜工業団地や和歌山下津港のある臨港地域へのアクセスが向上し、周辺地域の産業振興や観光客の増加が期待される。さらに、現道の和歌山橋本線をはじめとする周辺道路についても慢性的な交通混雑が緩和されることで、安全性及び快適性の向上が期待される。B/Cも2.1で費用に対して十分な便益が見込まれる。

上記から引き続き事業を継続し、平成30年度の完成を目指す。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。